ニューヨーク補習授業校だより

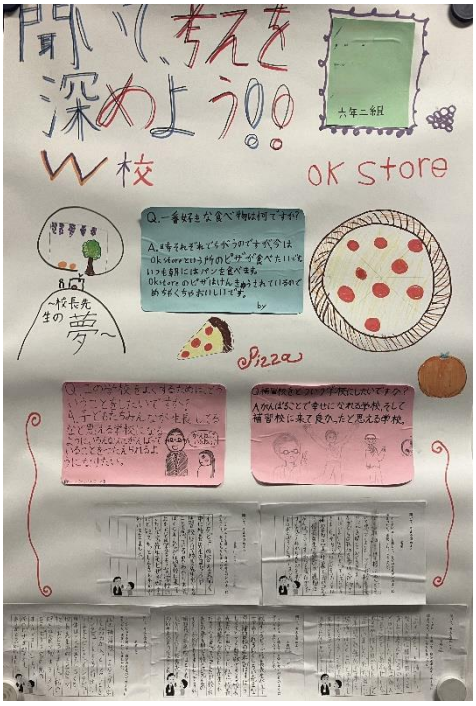
架け橋

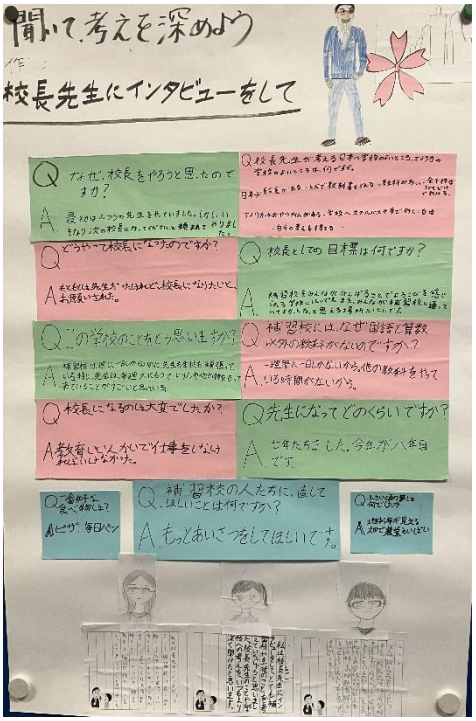
令和６年（2024年）７月５日　第11号　校長 小島　昇

６年「聞いて、考えを深めよう」の学習に協力して…

Ｗ校６年生の教室前に、国語「聞いて、考えを深めよう」の学習成果物が掲示されていました。私が一か月ほど前にインタビューの相手として学習に協力していましたが、作品として完成したようです。

これまでもお伝えしていますとおり、ニューヨーク補習授業校には２つの地区校があり、通常は校長と教頭が隔週で勤務しています。そのため、赴任初年度の校長や教頭は、子どもたちと親しくなるのに苦労します。今回、６年生の学習に協力して、子どもたちも同じように感じていることがわかりました。子どもたちは次のような感想を残してくれていました。





校長先生へのインタビューを通して、言われたように「きまり」だからではなく「良い」と思うから、積極的にあいさつをすることを志したいと思います。また、このインタビューのおかげで、もっと校長先生に親近感をわくようになり、とても楽しく、ありがたい経験でした。そして、毎週土曜日にしかない補習校にいる時間をもっと大切に使いたいと思います。

私はインタビューを通して、校長先生の好きなものや、どのように校長先生になったのかが知れました。また、補習校自体について知れました。校長先生が、あいさつをもっとしてほしいと言っていたので、校長先生に会った時は、必ずあいさつをしようと思いました。これからも補習校での時間を友達と楽しく大切にすごしたいと思いました。

一時間のインタビュー時間は私にとっても楽しい時間で、子どもたちを近く感じることができる時間でした。２校あり、幼児部から高等部までたくさんの教室があります。いろいろな業務がありますが、できるだけ時間を見つけて教室に向かい、子どもたちとの距離を縮めたいと考えています。

6年生から校長へのインタビュー（内容を一部紹介します）

Q この学校のことをどう思いますか？
A １週間に一度しか授業がない学校ですが、その一日のために子どもたちも先生たちも一生懸命がんばっている学校だと思います。

Q 補習校の人たちに直してほしいことは何ですか？「ない」という答え以外で。
A みんなよくがんばっていると思います。あえて言うとしたら、もっと挨拶をしてほしいです。

Q 校長としての目標は何ですか？
A 関わることで喜びを感じられる補習授業校にしていくことです。みんなが、それぞれの立場でがんばった結果、SMILE が生まれ、HAPPY な気持ちになれるニューヨーク補習授業校にしていきたいと考えています。

Q これまでに気づいた補習校の問題点は、何だと思いますか？
A 校舎を借りているので、自由に教室やジム、グラウンドを使えないことです。個人的には、２週間に一度しか子どもたちや先生と会えないことです。

LI校 大学進学セミナー



高等部２年の学級担任が講師となり、高等部１・２年の生徒と保護者を対象に大学進学セミナーを開催しました。

テストスコア、課外活動、日本語能力、推薦状、エッセイなど、大学進学に関する事項のポイントを学びました。「補習校の高等部を卒業する」ということも、大学進学の際にはアピールできる要素であり、高等部卒業のメリットを理解した生徒たちは、これからの補習校での授業にもますます前向きに取り組むことでしょう。

NY補習授業校の教師・職員として働いてみませんか



- 補習校で学ぶ子どもたちは現地校と補習授業校の両立で苦労しながらもがんばっています。そんな子どもたちのために情熱のある方を待っています。
- 本校では、教師、アシスタント、補佐などの登録受付を随時行っています。登録には米国で働けるビザまたはグリーンカードを取得していることが原則です。教師・代教については、日本の短大卒以上の履歴が必要です。
- 各職種の業務内容等については、本校ホームページをご覧ください。
- お知り合いに適任の方がいらっしゃいましたら、ぜひこの情報をお伝えください！